

全国海の再生・ブルーインフラ賞の取り組み状況

一般財団法人 **みなと総合研究財団**

【創設の背景】

国土交通省港湾局が「命を育むブルーインフラ拡大プロジェクト」を開始し、藻場や干潟等の創出に取り組む担い手の全国展開を目指していることを踏まえ、みなと総合研究財団は、令和5年度に「全国海の再生・ブルーインフラ賞」を創設。

【募集対象】

全国の海域及び沿岸域における環境再生、普及啓発、青少年の育成のほか、ブルーインフラの保全・再生・創出に取り組む団体活動(事業活動またはその一環として取り組んでいるものを含む)であって、社会貢献の実績と成果を有するもの

※過去に授賞した取り組みとその活動内容や取り組み主体が同一であると認められる場合には表彰の対象としない

【応募資格】

自治体、市民団体、民間企業、教育・学術研究機関等の複数の主体が携わる団体活動。

【表彰種類】

国土交通大臣賞 : 特に優れている取組

みなと総研賞 : 優れている取組

【審査の主なポイント】

- ・活動の目的: 環境や社会に対する貢献といった本賞の趣旨との適合性
- ・取り組みとその成果: 取り組みの内容、特色とその成果
- ・取り組みの継続性: 環境に係る取り組みの継続期間
- ・取り組みの独自性・先進性: 環境に係る取り組みの独自性・先進性

【審査等の状況】

令和7年11月28日～12月11日 書面による一次審査

令和8年 1月 8日 二次審査(申請者の事業説明[オンライン]→受賞取組を決定)

1月30日 審査結果プレスリリース

2月20日 第3回授賞式(第20回海の再生全国会議@広島と併催)

【国土交通大臣賞】 1件

取組名: 宇和島発! 災害に負けず“漁協・地域・自治体・企業・研究機関・子供たち”が連携実現したアマモ再生ブルーカーボンプロジェクト

応募者: 一般社団法人 宇和海環境生物研究所

授賞理由: 平成30年7月豪雨の影響で消失したアマモ場の再生に向けて、Jブルークレジット®の販売収益をアマモ場のモニタリングや青少年向けの防災環境教育に活用し、取組の持続可能性を高めている点、先端技術を活用して効率的にアマモ場の再生に取り組んでいる点、地域が主体となって企業等多様な組織が連携して取り組んでいる点を高く評価した。

宇和島発！災害に負けず“漁協・地域・自治体・企業・研究機関・子供たち”が連携実現した アマモ再生ブルーカーボンプロジェクト

一般社団法人宇和海環境生物研究所

■プロジェクトの概要

- 宇和海に面した吉田地域（愛媛県宇和島市）は、平成30年7月豪雨により、大量の雨水や土砂が海に流出し、アマモ場の消失や底質の悪化が進行した。
- この災害を契機として、「海の環境復興」を共通の使命とし、アマモ場や底質の再生に向けた取組の実施にとどまらず、全国の災害被災沿岸地域にも展開可能な“海による地域復興モデル”の創出を目指している。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- Jブルークレジット®の認証を受け、クレジットの販売収益を活動資金や青少年向けの「防災環境教育」に活用することで、自律的に取組を継続できる仕組みを構築した。
- 富士通株式会社と連携した「海洋デジタルツイン」を活用し、災害による堆積・流動の変化を再現したアマモの枯死リスクの予測、アマモ再生の「最適地点」の選定、今後の豪雨災害時の濁水流入シミュレーションを実施。これらで得たデータを踏まえた効率的かつ科学的根拠に基づいたアマモ場の再生に取り組んでいる。
- 海洋環境の保全・改善を漁業関係者や地域住民が主体に実施し、自治体や企業等の多様な主体が連携した協働体制と関係者・関係機関との広域的な合意形成を構築した。

活動場所



平成30年7月豪雨の被害



アマモ場の再生プロジェクト



青少年向けの体験型教育



【みなと総研賞】 1件

取組名：岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出活動

応募者：岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出プロジェクト

授賞理由：鉄を造成する過程で生成される鉄鋼スラグ製品を再生可能なリサイクル材として利用する技術を活用し、政府が国家戦略として進めているサーキュラーエコノミーの実現に貢献する取組となっている点、海辺環境の改善に地域が企業を含む多様な主体と連携している点、高等専門学校生による学会発表を通じた積極的な普及啓発活動を行っている点を高く評価した。

しんとうちさき 岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出活動

岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出プロジェクト

■プロジェクトの概要

- 本取組は、**神東地先（山口県岩国市）**における二酸化炭素の吸収・固定、漁業に有用な魚類の集積による漁獲高の増加、生物多様性の向上を目指し、**製鉄の工程で生じる再利用可能な副産物から製造した「鉄鋼スラグ製品」**を活用した藻場の創出活動を行っている。
- 本取組みにより、**約3.4ヘクタールの海藻藻場を創出**した。また、藻場創出の効果を科学的に検証するため、10年以上にわたって着生海藻の生育状況、有用魚類の集積状況、二酸化炭素吸収・固定量等の**継続的な調査**を実施しており、産学官が連携して環境改善効果の把握にも努めている。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- 天然石材に代えて**リサイクル材である鉄鋼スラグ製品**を用いて海藻藻場を創出した。
- 神代漁業協同組合が中心となり、岩国市、宇部工業高等専門学校、JFEスチールと連携し、**産官学一体で取組を推進**。
- 創出した海藻藻場を特定のコアメンバーだけでなく、**宇部工業高等専門学校の学生が研究の場として利用し、成果を学会や論文などにて発表**しており、本取組が青少年の育成など多面的な価値を生み出している。

活動場所の海域



設置した鉄鋼スラグ製品



鉄鋼スラグ製品の設置作業



造成した藻場での研究

